

所 報

一、大学院教育学研究科について

(一) 教育哲学、理科教育法の二課程の増設が五八年三月二五日付で文部省によって認可され、ここに設置二年目をむかえた本大学院教育学研究科は次のような内容をもつこととなった。

研究科	専攻課程 (修士)	毎年入 学定員	総定員
教育学 研究科	教育原理専攻課程	16	32
	教育哲学	(8)	(16)
	教育心理学	(8)	(16)
	教育方法学専攻課程	34	68
	視聴覚教育法	(8)	(16)
	英語教育法	(14)	(28)
	理科教育法	(12)	(24)

また新設の理科教育法課程は高等学校普通教諭一級免許状授与の所要資格をもつものとして、五八年四月一日付をもって文部省によって認定された。

所 報

(二) 五八年四月二十九日に五八年度大学院入学式を行ない二〇名の新生を迎えたが、これにより五八年度学生総数は三七名となり、その課程別数は、五八年四月現在次のようになった。

課 程	五七年度入学者		五八年度入学者	
	1	4	3	7
教育哲学	1	4	3	7
教育心理学	0	3	6	10
視聴覚教育法	0	3	6	10
英語教育法	0	3	6	10
理科教育法	1	4	3	7

(三) 五八年度に開設された大学院のための講義は次の通りである。

必修科目

教育哲学	単位	担当教官
教育哲学	3	小林澄兄教授
教育哲学特論	3	小島軍造教授
教育哲学特論	3	小島軍造教授
教育哲学演習	3	小島軍造教授

教育哲学演習	3	日高第四郎教授	英語教育法研究	6	ウイリアム・モリア教授
教育哲学研究	2	高坂正顕講師	英語学特論	3	清水護教授
基督教人間学特論	4	石原謙講師	英語学研究	3	アーサー・マッケンゼ教授
教育思想特論	4	小林澄兄教授	英語学研究	3	ロバート・ゲルハード教授
教育心理学			英語学研究	3	ロイ・ミラー教授
教育心理学特論	3	岡部弥太郎教授	理科教育法		
教育心理学演習	3	モーリス・トロイヤー教授	理科教育法特論	3	オーロ・ダービー教授
教育心理学演習	6	岡部弥太郎教授	物理学研究と演習	6	ドナルド・ワース教授
教育統計学研究	3	ヘレン・ウォーカー教授	物理学教授法	3	原島鮮教授
教育心理学演習	4	肥田野直講師	理科実験指導(一般)	2	山岡望信講師
視聴覚教育特論	3	西本三十二教授	理科実験指導(各科)	2	山岡望教授
視聴覚教育演習	3	西本三十二教授	教育心理学研究	6	ウイリアム・マックス・ワイズ教授
視聴覚教育特論	3	シエームス・テラー教授	教育統計学研究	6	ヘレン・ウォーカー教授
視聴覚教育演習	3	シエームス・テラー教授	基督教人間学研究	3	秋田稔助教授
視聴覚教育研究	3	ドナルド・ワース教授	教育思想史研究	3	長清子助教授
英語教育法			英文学(史)	4	斎藤勇教授
英語教育法特論	3	ウイリアム・モリア教授	古典語学	3	神田盾夫教授

選択科目

比較音声学 5 豊田実 講師

米文学 3 ウイリアム・モーア 教授

教育社会学特論 3 岡田謙 講師

教育課程論 3 オーロ・ダービー 教授

(四) 五八年九月二九・三〇日に主にICU明春卒業予定者を対称に五九年度第一次入学選抜試験を行ない、次のように各課程の合格者を決定した。

教育哲学 二名、教育心理学 四名、視聴覚教育法 五名

英語教育法 三名

なお、第二次入学選抜試験は五九年三月上旬に行なう予定である。

(五) 本大学院も明春には第一回の卒業生を出す見込であるが、卒業予定者およびその修士論文題目は次の通りである。

教育哲学

メラnhitonにおけるキリスト教ヒューマニズムについて

浅川裕子

教育心理学

ワルテック描画テスト(WZF)のパーソナリティ研究に

おける有効性について

渥美玲子

問題児の心理療法に関する一研究

古畑とも子

Measurement of Attitude

吉岡俊夫

視聴覚教育法

テレビ・サークルを媒介とした農村青年の

文化的向上

梶原愛子

国際理解とマス・コミュニケーション

児童マンガ雑誌における分析

千葉 晃弘

英語教育法

Development from Middle English to Modern

English — A Teaching Method in English History—

小池 一雄

On Chancer's ' Pardoner's Tale '—

As a Middle English Textbook

都留 久夫

The Influence of the Entrance Examination

on the Senior High School English Course

高橋 俊昭

Teaching English to the Beginners

北村 崇郎

## 二、「民主主義教育の哲学的基礎」について

この仕事は本誌前号で詳しく報告した昨年夏の「民主教育共同研究会」のあとをうけて、其処で提出されたさまざまな問題を整理し、それを更に展開して右の提要を<sup>シラバス</sup>一層充実する方向に向って継続されている。現在この仕事に協力しているのは、昨夏の共同研究会から引続いて参加している、池尾健一（千代田区立練成中学）、高橋亨（埼玉県立浦和第一女子高校）、上田幸夫（東京学芸大学附属世田ヶ谷小学校）の三君と当初からの協力者で暫く病気で中断していた川瀬謙一郎、そしてICU側の日高、小島、小林哲也、高森昭、千葉梶弘等の人々である。

昨年秋以来殆ど隔週毎に集って先ず本文の改訂を行い、近頃は本文中の言葉や事柄で一層の説明を要するものについての註釈を作製することに主力が注がれている。それ故この期間には成果としては何も発表出来なかったが、今後二、三ヵ月で一応のまとめをつけた上で、大方の批判を仰ぎ度いと願っている。

## 三、教育心理学教室

教育心理学実験室は十一月二日三日のICU祭に際して公開され、いろいろな実験のデモンストレーション、テストの実施等が主として学生の手によって行われ、多くの観覧者に設備のととのった実験室の存在を知らせた。

又教育心理学科の若手スタッフは家族関係の心理学的研究という外部との共同の研究に参加し、現在ドル・プレイを手段として観察室を用いて研究を進めている。これには学生も手伝い観察の練習ともなっている。

## 四、日本教育社会学会十周年記念大会を

### ICUで開催

戦後発足した日本教育社会学会は、早くも創立十周年を迎え、その記念大会が、十月廿五日（土）、廿六日（日）の両日にわたって、ICUで開催された。竣工間もないディフェンドルファ記念館と本館の両方を会場として、共同研究をも含めて、八十三人の研究者により、四十二の研究発表が行われ

た。それに、「現代教師論」「教師の実践記録の再検討」と題する、二つの課題シンポジウムが加えられ、最後に、「教育社会学は今後如何にあるべきか」という記念シンポジウムで幕を閉じた。尚、特別講演として東京学芸大学並びにお茶の水大学に、フルブライト客員教授として来朝中の教育哲学の權威、オハイオ州立大学教授 H. Gordon Hullfish 博士による“Cultural Factors Bearing on American Philosophy of

Education”は啓発されるどころ多く印象的であった。不利な地理的条件と悪天候にもかかわらず、参加者は二百五十人余、それぞれ、学級集団、遊戯集団、家庭と教育、集団と教育、パーソナリティ、不就学児問題、都市と教育、社会教育、教育史、徒弟教育、学生部会等、十の部会にわかれ熱心に討議がつづけられた。数においては、往年の盛況は見られなかったが、十年経って教育社会学会も落ちつくところに落ちついたという感じであった。十周年記念事業の一つとして全員参加する記念調査の企画も進められている。最後の記念シンポジウムは、海後宗臣教授の司会により、心理学、社会学、教育学、教育行政学等の関連分野の教授から、それぞれ注文

意見が述べられ、教育社会学を体系づける上の難しさと、関連分野との協力の重要さを鋭く指摘された。本大会の目立った現象の一つは東京をはじめ遠く香川県、山形県から、多数の学生諸氏が参加したことであった。当番校にあたったICUとしては、西本教授が委員長として大会を主宰され、米村助手と二人の学生（千葉梶弘、川島淳一）が研究発表を行った。

## 五、視聴覚教育

### 視聴覚教育センター

わが国最初の、大学院における視聴覚教育の専攻課程が設けられてから今年で第二年目を迎えたが、本学で一九五四年から三年間にわたって、西本教授とともに視聴覚教育センターの運営、視聴覚教育に関する講義を担当していたロイ・E・ウェンガー教授は、その任期を終えて、オハイオ州、ケント州立大学へ帰任した。その後任として、オハイオ州、マイアミ大学からジェームス・テイラー博士を新たに迎えた。

ウェンガー教授は、わが国の視聴覚教育の分野に、各種の

功績を残していったが、とりわけ視聴覚ライブラリーの管理、運営に多大の影響を与えた。今年迎えたテイラー教授は、西本教授と共同して、視聴覚教具、教材個々についての理論的、実践的な考察を行うとともに、視聴覚教具、教材の製作実習の指導にあたっている。わが国の視聴覚教育の分野に大きく横わる隘路、すなわち近代的教具教材の利用にともなう経済的な問題等を、この製作実習を通して、われわれは教育的に、また技術的、行政的に、根本的な考察をすることが可能となった。視聴覚センターがここに第二の段階に歩をすめたわけである。

### 協議会開催

ICUの主催する定期的な催しとなった、視聴覚教育研究協議会および放送教育研究協議会を、今年はそれぞれその第五回と第四回を本学で開いた。参加者は両協議会ともに、一二〇名をこえ、各日程に従って、各種問題がなごやかなうちにも真剣に論じられた。例年の通り参加者は、小・中・高および大学の教員、放送局のスタッフ、AV機材を提供するメ

ーカーの代表者等であるが、この広範な参加者層によって、視聴覚教育、放送教育の当面する問題が、理論的、技術的、政策的に、それぞれの専門分野に亘って検討された。

西本教授は、この協議会の始まる前の二カ月間、パリで開かれたユネスコ主催の「大衆教育とテレビ」の国際会議に出席し、その後イギリスをはじめヨーロッパ各地およびアメリカ合衆国のテレビ教育、視聴覚教育事情を視察し、この協議会において報告した。またこの夏、東京で開かれたアパコ主催の「アジアにおけるマス・コミュニケーション」の会に出席した、インド代表マクエルダウニー博士と、フィリッピン代表ヘンリー・マック博士をこの協議会に迎え、アジア各地の視聴覚教育の事情を聴くことができた。西本教授の欧米のAV事情の報告と併せて、アジア各地、さらに日本および、世界のAV情勢を資料として、視聴覚教育の問題の検討がなされたことは、この会を一段と稔りあるものとした。

なお、両協議会の日程と、全体討議の議題は次の通りである。

第五回視聴覚教育研究協議会

七月二十八日 大学における視聴覚教育の諸問題

七月二十九日 小・中・高校における視聴覚教育の諸問題

七月三十日 テレビ教育の可能性

第四回放送教育研究協議会

七月三十一日 現代社会とラジオ・テレビ

八月一日 学校放送のあり方

八月二日 教育テレビの将来

視聴覚教具教材の利用

視聴覚教育センターの主なる仕事に、視聴覚教具、教材を大学の授業に提供し、また教職員、学生の利用に供するといふ仕事がある。さらに学校外へのサーヴィスも行っている。四階のテープ・ライブラリーの中のあるものは、地方の高校の英語教育のため等に複製されて送られている。

次に掲げる表は、一九五七年四月以降の視聴覚教具の利用頻度であるが、前年度と比較して、テープ・レコーダー、幻

灯機の頻度が少なくなっているのは、テープ・レコーダーについては、四階のスタジオを、英語スピーチ、発音の練習のために学生に常時開放しており、これはテープ・レコーダーの使用頻度の表に含まれていない。また幻灯機の使用についても、最も利用頻度の多かった人文科学科、美術のデパートメントに、学期単位に貸出しているので、これは幻灯機の利用頻度に含まれていない。録音機については前年度同様、英語科の使用しているものは含まれていない。

視聴覚教具の使用頻度表（一九五七年及び一九五八年度上半期）

月	一九五七年				教具
	四月	五月	六月	七月	
九月	49	6	6	76	幻灯機
八月	2	15	8	20	映写機
七月	89	172	140	111	テープ・レコーダー
六月	20	2	3	53	レコーダー
五月	71	71	71	71	ド・ブレイ
四月	41	5	5	5	

五八年度の教育実習は昨年度同様、三鷹市教育委員会の好

### 六、教育実習

計	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一九五八年 一月	十二月	十一月	十月
523	15	28	3	3	9	16	18	12	12	27	28	52	51
175	14	12	6	10	8	8	8	3	6	2	6	7	12
145	874	26	5	11	52	50	51	38	41	36	40	114	256
192	8	0	0	2	3	12	15	3	4	8	7	17	6

意により、都立三鷹高等学校、三鷹市立第一中学校、第二中学校、第三中学校、第四中学校の協力を得て次のように実施された。

1、実習生総数 四五名（男子九名、女子三六名）

2、実習日程 指導講義 三日間

実習期日 五月二六日―六月七日

3、実習校と実習生の配当

計	協力校					実習科目
	四中	三中	二中	三鷹一中	三鷹高校	
27	5	6	4	8	4	英語
13	3	2	3	3	2	社会
5	0	1	0	2	2	理科

三鷹市教育委員会と協力校の諸先生方の御好意と御指導、本学関係職員の指導ならびに参加実習生の熱意によって、本年度も実習を有意義に終ることができたことを感謝をもって報告しておきたい。



七、人の動き(大学院及び教育研究所関係)

外国から(大学院講義担当のため)

担 当 科 目  
(括弧内は本国における所属)

Dr. Helen M. Walker Educational Statistics

(Teachers College Columbia University)

Dr. Oalo Lee Derby Curriculum in Science

Teaching

(State University Teachers College

Brockport, New York)

Dr. William Max Wise Counseling

(Columbia University)

Dr. James W. Taylor Audio-Visual Education

(Miami University Oxford, Ohio)

外 国 へ

篠遠 喜人 一九五八年 七月二〇日—一〇月二日

八月一日—一五日

第一回国際小麦遺伝学会議 於カナダ、ウィニペグ

八月二〇日—二七日

第十回国際遺伝学会議 於カナダ、モントリオール

清水 護 一九五七年 九月三日—一九五八年 一〇月

一五日

Harvard Univ. で 研究 (Harvard-Yenching Inst.

所属) 十一月 Fulbright (旅費) 及 Smith-Mundt

(生活費) の Award

Ol. A. Richards 教授及 Gibson 女史の下で英語教

授法を研究

○英語、英文学の研究

帰路アジア財団の補助の下に 八月六日渡英

三週間滞英

九月二日—北欧はじめ欧州諸国を視察して中東を経て

一〇月一五日帰国

西本三十二 一九五八年 五月二日—七月五日

五月一二日—二三日

テレビと大衆教育のセミナー(ユネスコ)於パリ

日高第四郎 一九五八年 一〇月三十一日—十二月一八日

一月四日—二月五日

第十回ユネスコ総会 於パリ

日本政府代表の一人

二七四

### 第三号目次

#### 研究論文

寛容について(その二)……………関屋 光彦

天皇制とキリスト者の意識……………武田 清子

自叙伝にあらわれた国立大学学生の宗教

と社会思想……………岡部弥太郎

協同と競争について……………古畑 和孝

民主主義教育の哲学的基礎……………小島 軍造

Anthropology and Educational

Theory……………J. A. Lauwerys

Education for International Understanding

in Shushin Textbooks……………Tori Takaki

#### 報告と所感

ロアリス博士を迎えて……………日高第四郎

#### 書評

T. Romein : Education and Responsibility

を読んで……………秋田 稔

#### 所報